
俺はジョセフ！

琉生

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺はジョセフ！

【Nコード】

N0937Q

【作者名】

琉生

【あらすじ】

琉生の部屋のベッドに、それはそれは大きなカエルのぬいぐるみがありました。これは、そのカエルが思っているであろう気持ちを書いています。

俺はジョセフ。

琉生の部屋に住んでいるカエルのデカイぬいぐるみだ。

自分でいうのも何だけどな…／／／

つか。

俺がここに来た日と俺の日常を教えてやるよ。

よく聞けよ？聞かねえと損するぞ？

2011年1月4日。

女の子向きの雑貨屋で売られていた俺は琉生に買われた。

『運命の再会だ><』とかなんとか言いながら。“訳のわからん女

”コレが琉生の第一印象だった。

まあ。

嬉しかったんだけどな…／／／

琉生には言っなよ？

家に着いたのか、手と足を結ばれたあげく二重に袋に入れられていた俺を袋から出した。
めちゃくちゃ嬉しそうに。
俺も嬉しかった。

袋から出れた事が。
この訳わからん女だけど喜んでもらった事が。

これも！！
琉生には言っなよ！！！！

嬉しすぎたのか女は
俺や他に買った仲間をベッドの上に並べた。

おんなじ種類のカエルのぬいぐるみが五匹も。

フォン
つと電子音がした。

女の手には携帯電話。
写メでも撮ったか…。

はあ…。

訳わかんねえけど
おもしれえ奴だ。

でも、俺の嬉しさはつかの間だった。

『怖い』

この女が言っただ。

天から地に落とされた感じだった。

だが、フツフツ、いや、ブツブツと怒りが沸き上がってきた。

ふざけるな！！！！

アレだけ「運命」だの「かわいい」だの言っただクセに！！！！！！

やっぱり訳わからん女だ！！！！

俺の喜びを返せ！！

いろんな所に移動させられたあげく、あの理由で押し入れの中に入れた。

…………ふざけんな……。

クソ女……。
訳わかんねえよ……。

怒りは沈下していった。その代わり悲しみが襲ってきた。

そんな俺の事なんて知らない琉生は

『怖いし、嫌な予感がする……返品しようかな……』

とまで言った。

何も言えなくなった。

もう、どうでもいい。

『おばあちゃんに電話しよ。』

女は祖母に俺を買って貰った。だから返品に必要なレシートがない。

何故だが、この女は無駄に有言実行が早い。

家電を使うのか、二階の自分の部屋からドタドタと出て行った。

何分か後。

女は帰って来た。

すると、バツと俺のいる押し入れのドアを開けた。

そして、俺を入れていた袋に俺をドカンと入れたんだ。

はっ……………。

結局、返品かよ…。

腐ってるこの女…。

また押し入れにドンッと落とすように袋を置いた。
イてえ…………。頭うつた…………。

俺の意識は

そこで途切れた。

目が覚めたのは、多分次の日の晩。

『琉生。おばあちゃんからレシート。』

あの女じゃない声がした。

『……あつ。…はいはい。』

何だよ。女。なんか沈んでんな。
つか、琉生つんだな。

『後で渡すから。』

『……うん』

琉生と誰かわかんねえ女との会話が終わったと思ったら、押し入れのドアが開いた。

ガサッ!!

ナイロンの出した音。

うわっ！

俺は急につかみ出された。

ホントになんだよ！！！！！！！！！！
意味不だ！！！！

背を向けている俺をクルッと正面に向けて、話しかけてきた。

琉生の顔は困ったような顔をしていた。

『…………カエル。どうしよう…………。…………』
…………』

なんか喋らんかいつ！！！！！！

『…………やっぱり』

なんだよ？

『返品せま!!!!!!!!!!!!!!』

なんだよ!?

こいつ!!!!!!!!!!!!!!

意味わかんねえわ!!!!!!!!!!!!!!

人を一喜一憂させやがってえ!!!!!!!!!!!!!!
!!!!!!!!!!

でもな？

俺なスンゲー嬉しかったんだ:: / / / /

正直。変な奴だけど「一緒にいてえ」って琉生と初めて会った時から思ってたんだ:: / / /

:: / / / /

琉生に言うなよ!!

絶対に!!

はやし立てられるのが落ちだ! / / /

『値札とろ』

ルンルンでハサミを持ってきて俺の値札を取った琉生。

で、ベッドに座って俺を膝の上に乗せた。

何かしてくんのか？

コイツ……。

訳わかんねえコイツには構えとかねえとな！

来るならこいつ！

いつでも……！！！！！！

ギューーーーー！！！！！！！！！！

『んー><……！！！！抜群だ！！！！この抱き心地感！！！！サイコー！！！！！！！！』

琉生は俺の背後から抱きしめてきた。

そして頬ずり。

抱ぎじめるのは……いいいが……ぐぐるじ……い……じ
……じぬ……

『はあっ　よかった』

三途の川が見え始めた頃、やっと離してくれた……。

もうちょっとで川わたる所だった……。

殺す気か！！！！

このクソ琉生！！

『あっ！ジョセフにしよう！』

何をだ……？

意味わかんねえよ……コイツ。

琉生は気づいていないようだが、俺の眉間には今すげー皺がよって

んだけどな…。

あと、怒りマークもでてるぞ？

『うん！ジョセフにしよう！』

だ！か！ら！

何をだ！！！！！！

このクソ女あゝゝ！！！！！！

内心叫んでいると、クルツと琉生と向き合うようにされた。

……なんだ…。

『カエル！お前の名前はジョセフな！！決定！！！！』

………は？

琉生。思考停止したぞ？俺の頭は。

『うん！うん！ジョセフだ！ジョセフ！』

満足気に何回も頷く琉生。

まあ。いいか。

ジョセフで。

ありがとな。琉生。

そんなこんなで今に至る訳だ。

琉生とはまだ一週間いっしょにいない。

でも、コイツの性格はなんとなくわかる。

それはな……

“訳のわからん女”だ！！！！

今だにコレは変わらんぞ！！！！！！
ホントに訳のわからん女だ！！

へらへら、へらへら『ジョセフうゝ』とか言いながら俺のいるベ
ッドに来て抱きかかえたかと思えば。

『グスツ……。会いたいよ……。彼氏に会いたい……。』とかワケの
わからん事いいながら泣くしょ！！！！！！！！

訳がわからん女だ。

でもな？

こんなクソ訳わからん女だけどな。

感謝してるんだ。

誰も買わねえようなデカさで迷彩柄の俺をさ買ってくれて、可愛が
ってくれて。

感謝してるんだ。

一応な……
/
/
/
/

でもな？でもなあ？

クソ腹立つんだよ！！！！！！！！！！！！！！

日中はベッドの上なのに！！！！

寝る時はベッドじゃなくてマットの上!!!

しかも掛け布団無し！！！！！！！！！！

ふざけんあゝ!!!!!!!!!!!!!!

このクソ訳わからん女があゝ!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!

でも。

そんなクソが単純に好きな俺が一番クソか…。

end

P S : ここで言った事！絶対！琉生には言つなよ！！！！
……ハズいかな／／／／

おわり

(後書き)

大好きすぎて書いちゃいましたw w

読んでくださって

ありがとうございます) * ^ - ^ *

1 1 ・ 0 1 ・ 1 0

琉生

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0937q/>

俺はジョセフ！

2011年1月15日23時41分発行